

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 6/12 第9号 文責 林

学校教育目標 「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒を育成する」

思い出に残る修学旅行

6月6日(水)から8日(金)まで修学旅行を実施しました。行き先は、長崎県松浦市と長崎市です。京都を出発する時は雨が降っていて心配しましたが、長崎では雨に遭わず充実した活動ができました。大きなトラブルもなく、全員が元気に京都に帰ってこられたことをまずは喜びたいと思います。

前日の6月5日(火)の学年集会で私から「非日常を楽しむ」3日間にしてほしいとお願いしました。日常生活の決まったルーティンから外れて過ごす3日間です。「非日常」の中で現地の長崎県の方々とふれあいを楽しんでほしいし、現地の方々に京都の良さを伝えてほしいとお願いしました。京都の良さを伝えることで京都に良さを再発見できるだろうし、長崎の良さも実感できると考えたからです。また、クラスメートの日常とは違った一面や日常生活ではわからなかった自分自身の一面を発見できるかもしれません。そういうことも「非日常を楽しむ」ことから得られます。さて、「非日常を楽しむ」3日間になったでしょうか。各自で振り返ってみてください。

修学旅行中に私自身が感じたことをいくつか挙げていきます。まず一つ目は、長崎県の方々の温かさです。民泊体験でお世話になった松浦市の方々の温かさが特に印象に残っています。船釣りや港での釣り、じゃがいもやいちごの収穫体験、チャンポン作り体験など多彩な体験をしました。例えば港での釣りでは、初めて釣りをする女子生徒がいたのですが、ていねいに餌の付け方や釣り竿の使い方を教えていただき、女子生徒は見事に魚を釣り上げ喜んでいました。また、民泊体験では家族の一員として受け入れていただき温かく迎え入れていただきました。入村式では少し緊張していた生徒たちでしたが、翌日の離村式では別れを惜しんで涙する生徒がいたくらいでした。松浦市の皆さん、ありがとうございました。



二つ目は、長崎市での平和学習です。平和公園を訪れ、評議員の生徒が進行役を務めてくれて「平和セレモニー」を行いました。「平和セレモニー」では、メッセージを読み上げ、折り鶴を奉納しました。そして、最後に1分間の黙祷を行いました。1945年8月9日に原爆が投下され一瞬にして73000人を超える方々犠牲になり、その後多くの方々が原爆の後遺症に苦しめられました。平和セレモニーや、その後に訪れた原爆資料館で貴重な資料を見学して改めて平和の大切さを学びました。今回の平和学習を通じて、平和を守るために一人一人が何ができるかを考え、実行してほしいものです。

三つ目は、3年生の生徒の力です。出発時の集合には何人かが遅れました。修学旅行中は班別研修などで集合に大きく遅れる生徒は、いませんでした。また、急な予定変更にも慌てることなく落ち着いて対応してくれました。中でも最も印象に残っているのは2日目のホテルでのレクリエーションです。実行委員の生徒が司会と進行を担当してくれました。レクリエーションの内容がおもしろかったのもあります。司会と進行がうまく、全員の生徒が笑顔で参加していました。たいへん盛り上がり、すごい熱気でした。3年生のパワーを感じた時間でした。3年生のパワーを今後の学校生活や学校行事に活かしていってください。



こうして、修学旅行を振り返ってみると、充実した修学旅行だったと改めて実感します。修学旅行での経験を今後の学校生活に活かして、さらに充実した、一人一人が輝く学校生活にしていってください。